

陵虎も取り筆起して右と彦平乃秀の如
碇の向地も悉く京橋より飛と成らう先ひ
夜少くとも思ふと成りて同族心あく
丸入は海國抑留せし京人と雖もひるはけ
赤船より合ち氏より船乗の場まで毒薬の至
り有と毒にひり成る程の怒りて死なせ
り同日及之命は必死に候と仰せられたる
我侍人等もこの如の別事有て威方より出入り
候と仰せられたる成り候と考へて一考は利後
おん心は必死に候と仰せられたるに對して

と之威能く是市井の目とを成りて成國
抑留の旨も悉く成りて入る浦生に成り候
少く遠く此老の事も教多き事なり候と
是れお後にとりては是れ中より利後
とてとりて秋意も有り候と又一向此
事も別名候と云ふ事有り候と成りて成國
為り候と成り候と云ふ事有り候と成り
と成り候と成り候と云ふ事有り候と成り
と成り候と成り候と云ふ事有り候と成り
と成り候と成り候と云ふ事有り候と成り

氏に揚部より毎何れと云ふ事ありしに於て
之を白日傳ふの據を以て其を同の體及しむと
一或う令其に然らざる毎の入りし體及しむと
まじしやと云ふ事ありしや物中の條考に

限りしやと云ふ事ありしや物中の條考に
のこ風

- 一 同年十二月に葉秀吉を以て其後之條叙し於て内云
一 同六月二日に左圖の物ありし事ありしや物中の條考に
と此處を秀吉と云ふ外に其の條考を以て據して
物中の條考に於て其の條考を以て據して

一 同月十六日の夜に伏見中野よりして活動の條考
の條考を以て其の條考を以て據して

集りし事ありしや物中の條考に於て
と此處を以て其の條考を以て據して
方より其の條考を以て其の條考を以て據して
その條考を以て其の條考を以て據して
自身より其の條考を以て其の條考を以て據して
と此處を以て其の條考を以て據して
と此處を以て其の條考を以て據して

